

## ◀S·E·L·D·A·A▶ No.10

平成2年8月10日 発行

上智大学英語学科同窓会  
東京都千代田区紀尾井町7-1  
上智大学英語学科事務室気付

Sophia English Language Department Alumni Association

## 学科長就任にあたって

松尾 弑之

学生数700余名、卒業生4000余名という大きな組織が現在の英語科の姿です。学内的な状況だけを考えてみても、外国語学部の生徒数の約半分が英語学科生です。また社会的にも上智の看板学科としてのイメージも強く、私たちの学科の持つ意味は極めて大きなものです。科長として重大な責任を負わされた……とりたいところですが、そのような暇さえなく日常の雑務に追われています。

しかし、組織には夢や理念というものもあるわけで、それを私なりにまとめてみると次のようなことではないでしょうか。私たちの学科の目的は、英語運用力を身につけたうえで世界的に通用する教養を学んだ人材を世に送りだすところにあります。その意味で、この学科は英語に強いリベラルアーツ・カレッジだと規定できます。

では具体的になにをやるのかということですが、来年（1991年4月）から次のようなカリキュラム上の考え方で授業が組み立てられます。1年と2年次には主として英語と一般教養科目を学び、幅広い教養と英語の運用能力を高めます。3年次からは各自の関心に応じて次の4つの分野から一つを自分の研究領域とします。

1) アメリカ研究 2) 英国および英語文化圏研究 3) 言語およびコミュニケーション研究 4) 国際関係研究



授業についても、日本の大学にありがちな緩いものではなく、しっかりとした内容のあるものにするべく学生と先生たちの自覚をうながし、たく思っています。制度的には1週間1回の授業が1年間続くのではなく、1週間に2回の授業で1学期で終わってしまうという欧米型（セメスター制度）を採用します。これで多少は集中的に学問をすることができるのではないのでしょうか。上智は、東大などと並んで文部省が認めた数少ない「研究大学」ですので、中身のうえでも一層充実させようというわけです。

さいごに、卒業生と仲の良い学科、卒業生と在校生の交流のある学科を目指しています。フレッシュな感覚の若者と社会で苦勞なさっている諸兄（姉）の交流は、両者にとって得るところがあるはずだからです。

このような理想を掲げてやや強引に突っ走っていますが、それというのも私もこの学科の卒業生でもあり、学科をより良くしたいというナショナリストだからです。なにとぞ卒業生各位の御理解と御協力をお願いします。

# SELDAA活動内容紹介

SELDAA が組織されて7年目に入り、関新会長のもと今後の活動内容が常任委員会で討議・承認されましたので以下ご案内致します。

(各部門担当委員は7ページ参照)

## 1. SELDAA フォーラムの企画実施

国内外を問わず、著名人を招聘し、上智大学内に於いて、英語学科卒業生、在校生を対象とした講演をしていただき、交歓会を催します。

## 2. BTF 講座の実施

(BTF: Back to the Future)

社会で広く活躍している英語学科卒業生が講師となり、在校生を対象に講座を実施する。現在、松尾学科長のご努力で聴講学生の単位となる授業形式にまとめていただいた結果成立し得たものです。

SELDAA では、この企画に賛同される方の自薦・他薦をお待ちしております。是非ご一報ください。

## 3. 野口基金の運用

故野口教授を記念して Nissel 教授が卒業生から募った募金で設立した基金。使用用途として、英語学科在校生への資金援助の一部として使用すべく、現在、企画を練っています。決定次第ご報告を致します。

## 4. SELF 活動(後述)のバックアップ

本年度に予定している SELF 活動に、可能な限りバックアップする体制を取ります。

## 5. 女性セミナーの実施(内容報告は後述)

以前から実施しており、参加女性の間で好評を博している女性セミナーを今後とも積極的に実施します。

## 6. SELDAA 会報の年2回発行

今まで年1回の発行でしたが、春及び秋の年2回の発行に変更し、全英語科卒業生及び在校生への送付に努力します。(卒業生名簿の充実にご協力ください)

## 7. 会則の改定

会則制定時より年度もたち、組織も大きくなった理由から必要な項目の改定を検討します。改定内容は後日の報告とさせていただきます。

## BTF講座について

昨今の学生たちは、頭も良く知識としての世界は心得ているのですが、現実の社会のことについては驚くべき無知の状態にあります。その無知さが、学問を実態のないものにしていきますし、ひいては語学上達の足をひっぱっています。したがって社会にはいられた方々のちょっとした話やしぐさなどでさえも、学生にとっての重大なヒントになっています。そこで卒業生の善意におんぶしてこの講座を開設しようというわけです。参加資格は特にありません。貴方の経験はどんなものであっても後輩の参考になります。一片の熱意と卒業証書だけが、この講座の講師になる資格です。

卒業生講師は、1回90分3週間の講座で、社会の中における英語学科卒業生、社会生活における英語との関わり等のテーマで話していただきます。最終日には、学生と英語学科専任教員との討論会・研究会とします。

無報酬であり、時間は取られるのですが、ぜひとも参加をお考えください。具体的な時間帯など今、詰めの作業中ですが、来年の4月から実行します。お問合せは SELDAA の担当者又は英語科事務室(03-238-3719)まで。

英語学科長 松尾 弉之

---

## 90年代の SELF を模策して

SELF 会長 齊藤 淳

---

今世紀も最後の10年に入るに当たり、英語学科にも地核変動の波が押し寄せているように思われてなりません。数々の偉大な先輩方を輩出してきた英語学科ではありますが、その担う使命も、時代と共に変化を遂げる必要に迫られているのではないのでしょうか。

そのような中で、学生の声も、英語学科の運営に少しでも反映させようとの目的で、ここ数年には見られなかった新しい試みが、SELF の中で繰り広げられようとしています。例えば、アメリカの大学でみられるような学生による教員・授業評価制度の導入が挙げられます。残念ながら、全学科的規模での実施には至ってはいませんが、すでに、いくつかの科目で実施され、集計が行われています。

先日、部室の資料を整理するに当たり、SELF の足跡を発足に遡って辿ってみる機会がありました。先輩方の大きな業績に比べ、私どもがこのようなことを申し上げるのは大変おこがましいことではございますが、90年代にふさわしい SELF のあり方を、私どもなりに模策していこう、そう思う次第であります。

---

## 女性セミナーへのお誘い

女性セミナー担当 鈴木禮子

---

1984年11月の第1回目より6年目を迎えました。短編のビデオフィルムを見、スクリプトを読み、Fr. Nissel に解説して頂くことから始め、アメリカの短編、英国の詩を読み、少々英語に慣れ(?) た頃から「日本人の誤りやすい点(英語の表現で)」、「欧米の教育について」、「言語学の変遷」、「言葉とフェミニズム」、「国際語としての英語」、また世界に目を向け「日本の国際化とその問題点」、アイルランドの作家 F. O'Conner の作品を読んだり、ビデオを見ながら英語でのものの考え方や、とくに会話でのていねい語の使い方を学んだりと回を重ね、本年4、5月は、文学部の別宮先生から「翻訳のはなし」、「言葉遊び」を伺い、その関連から、6、7月は Fr. P. Milward にお願ひし御著書の『英語感覚の秘密』からいくつか取り上げ、翻訳の問題の根底、つまり人間同志の真の理解へ、一つの言語からもう一つの言語へと翻訳し真実を伝える時の問題を話していただきました。話題は多岐に渡りますが、時に英語そのものにも戻り、学び直しながら、主として英語でのレクチャーを楽しんでおります。

上智の神父様以外にも外から講師を招いて、伝統的なものを学ぶと同時に、移りゆく言葉と文化の生の情報を得るなど、多くの女性にとって知的刺激を得るよい場となりつつあり、皆様の御協力ですますます発展させてゆきたいものと願っております。

英語学科を主体に他学科の卒業生、また口コミで外部の方も交え、現在約50名の方が登録、毎回25~30名の出席でこの会は成り立っております。

日 時：原則として毎月第4水曜日

午前10:30~12:00

場 所：かつらぎ館地下ホール

会 費：年会費 3,000円

連絡先：世話人 41年卒 鈴木禮子 (321-3378)

会 計 43年卒 吉田知子 (332-1840)



## 民主化の波のおし寄せる激動の東欧 —ポーランド駐在時のレポート—

JETRO

昭和39年卒 水口泰弘

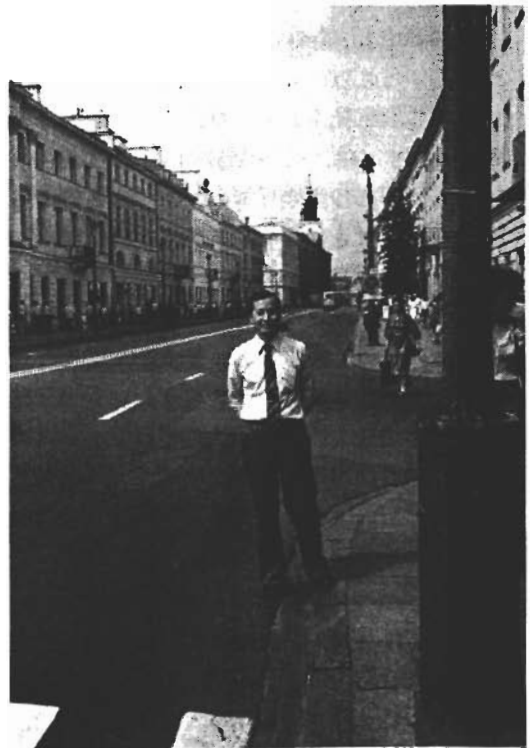
4月末に2年余のワルシャワ駐在を終えて帰国しました。今回は米国、ギリシアに続いて3度目の海外勤務でしたが、子供の教育問題などの事情で当世流行(?)の単身赴任を余儀なくされました。

ポーランドという国で、皆様は何を思い起こされますか? 地動説のコペルニクス、ピアノの詩人ショパン、科学者キュリー夫人など歴史上の人物でしょうか、或いは、現代では民主化運動の象徴ヴァウエンサ(ワレサ)連帯委員長を思い浮かべる方もあるでしょう。何れにしても、私達日本人にとっては概して染みのうすい遠い国と思われませんが、親日的なポーランド人に言わせると、日本はソ連をはさんで“お隣りの国”ということになるのです。彼等は、戦後日本の目覚ましい経済復興をよく知っていますし、また、自動車・カラーTV・ビデオ・カメラ等々の工業製品を通して日本の優秀な技術力に尊敬の念を抱いているようです。ある世論調査で、ポーランド市民が最も好感をもっている国として日本が挙げられ、意外な気がしたことがあります。

ご承知のように、89年は東欧諸国に民主化の嵐が吹いた激動の年でしたが、その震源地となったのがポーランドでした。6月の総選挙で連帯が圧勝して、東欧圏で初めての非共産党政権が誕生した時、これが国際ニュースの焦点になった観がありましたが、実は、ポーランド国内で暮らしておりますと、この歴史的な大転換を肌で感じるということは少なかったのです。日本の新聞・雑誌等のセンセーショナルな報道ぶりを見て、事の重大さを再認識するということもあった次第です。40数年間続いた共産党の独裁政権が崩れ、民主政治に移行したのですから、

1世紀に1度あるかどうかという重大な出来事であったのですが、ポーランドの民主化への動きは他の東欧諸国のケースと違い、深刻な緊張状態や騒乱といった類いの社会現象がほとんどなく、深く静かに進行したと言えます。

民主化が先行したポーランドの最大の課題は、経済の立て直しです。ハイパー・インフレーションと言われる狂乱物価の悩みと、400億ドルの対外債務が重い足かせになっています。社会主義時代の中央計画経済を脱し市場型自由経済への移行に取り組んでいるのですが、難問山積で経済再建にはかなりの時間を要するという見方が一般的です。ポーランド経験者の1人として1日も早い復興を願わないではいられません。



## 世界を動かした名言の旅

名言コーディネーター  
隈部まち子

〈速く生き、若く死に、美しい死体になろう〉  
——ジェームス・ディーン

Live fast, die young, have a beautiful corpse.

いきなり笑えない名言ですが、私は現代の世界の有名人の極付の言葉を集めて日本に紹介しています。

全国各地で講演してみると、「新しい外国の名言は、昔のことわざと違って自由に解釈できるところが面白い」

どうやらこれも名言の魅力です。冒頭の名文句だって、激動の世界を勝ち抜く日本人ビジネスマンへの皮肉な警句とも取れますね。

去年『世界を動かした名言』を出版し、今年も講談社から同じく英文対訳で、『名言は力なり』全7冊を出版することになりました。

以前、フジテレビの報道番組「デイトライン」で、

〈失敗は、成功の味を引き立てる調味料だ〉  
——トルーマン・カポーティ

Failure is the condiment that gives success its flavor.

この名言をお話ししたら、「もっと沢山紹介して」

こんな反響があったおかげで、この名言全集が誕生しました。もっとも、連日テレビ画面で



ドジを踏み、恥をかいていて、カポーティの名言にすがっていたというのが紹介した私の本音ですが。

講演をすると、会場に英語学科の諸先輩がいらして、場を盛り上げるために、質問して下さるので私は救われます。が、時には私のつたない話では質問も思い当たらないとみえて、

「在学中、上智のオーケストラにカラヤンを呼んだ時の話をして下さい。」そこで私は、今は亡きカラヤンと大学時代を思い出し、『千円のみかんひと籠で神様にレッスンさせた』と評されたエピソードをご披露します。でもこれでは私の年齢と世間知らずがバレるだけなので、カラヤンの一言をプレゼントすることになっています。

今日は各界でご活躍の SELDAA の皆さんに贈ります。

〈自分のやることを一つ決めて、それをずっと続けなさい〉

——ヘルベルト・フォン・カラヤン

## 咲いたのは、Only Narcism

《花塾》主宰  
昭和44年卒 刈米義雄

海外特派員、パイリシンのジャーナリストに憧れてはいたものの、卒業前年度に猛威をふるっていた学園闘争を前にして感じる処あり、在学中から学んでいた古流の古典生花の世界に飛びこんだ。何しろ根っからの《政治》オンチなのである。自慢になる訳ないか。

内弟子——その華麗にして、徒弟制度の名残りの匂いに酔いしれるようにして数年を過した



ものの、華道界という狭いワクに生意気になりかけていた自分自身が満足する筈もなく、流派にとらわれず花を活けていこうと思いたち、美しい花器や古雑器を扱う店を開いた。その店の中心に自分が存在していて、毎日自分が花になったように楽しい日々だった。ちょっぴり粋に着飾って、カミさんとふたりで演技過剰にふるまったりして。

でも、三十過ぎたら急に虚しくなっちゃって。衝動的に開いた店を、これも衝動的に閉じた。ボクは人生の中で《衝動》を一番大切にしている様子がある。

狂ったように撮りまくった自分の花の写真が、幸運にも文化出版局の編集氏の目にとまり、処女作『花の絵・いけばな』（花・撮影・文）を上梓。8年前の初夏だった。



早いものでアメリカで生活を始めてから8年目を迎えました。32歳でノースウェスタン大学ビジネススクールの日本人女性第1号として暖く受け入れられ、アメリカの学生生活を満喫。残念ながら就職先が見つからず、帰国してイギリスの証券会社で薬品アナリストとして働いていた時にアメリカに出張する機会があり、現在の上司からリクルートされて今の会社（上智を卒業してから5番目の会社）に入社して6年目になります。会社がマンハッタンからプリンストンに移った為、私も引っ越しをして今では郊

続いて『陽炎植物苑』を誠文堂新光社より刊行して戴き、去年は処女小説『水草の部屋』（河出書房新社）を発表。青山の'SELAN'で開催した出版記念PARTYにはFr. NisselやFr. Barryにもお越し願って、雨季の宵、再び一夜の花とさせていただいた。

自分が花になれるなら、どんなことでもしちやいそうな気がする。花を活け狂って、極楽トンボで暮っていたい。お気楽にね。40も半ばに向って、それで暮せればそれも才能って思っていたい。あんなに大好きだった英語で身をたてることもできなかったし、神父さんにもなれる訳じゃない。ちっちゃな《花塾》なんて教室を原宿で主宰して、これもお遊び、あれもお遊びなんて嘘ぶいている自分が時折愛おしくて抱きしめているの。

## 8年目のアメリカ生活

メリルリンチ アセット マネージメント  
インコーポレイテッド  
ヴァイス プレジデント  
昭和45年卒 中島悦子

外の生活にすっかり慣れました。会社は家から車で15分の木と人工湖に囲まれた所にあり、庭園では四季の花を楽しめます。会社にも住んでいる所にもプール、テニスコート、ジョギング用の道が備わっているの一年間日焼けがとれず、日本のホテルのポーターに英語で話しかけられる有様。日本には年2回出張して休暇の時に上智の友達と飲んだり旅行したり楽しんでいます。今はアメリカ人の上司と投資信託など4つのファンドを運用しています。日本、東南アジア、オーストラリア等の太平洋地域の株式に主に投資をするもので、一番大きいメリル・リンチ・パシフィック・ファンド（約3億ドルの資産）は2500以上ある投資信託の中で5年間で11位、10年間で2位の運用成績をあげています。各国の経済、業界、会社は常に変化してゆくの忙しい思いをしていますが、性に合っているので長時間労働も苦になりません。上智できたえられたおかげで英語で不自由を感じる事もなく、又素晴らしい友達にも恵まれ感謝しています。

## 関 新会長のもと、第三期 SELDAA 常任委員会スタート

本年度より、関 浩一新会長を迎え、第三期の常任委員が決定いたしましたので報告します。

### (企画担当事項)

名誉会長	松尾式之 (S. 39年卒)	BTF 講座・野口基金
会長	関 浩一 (S. 39年卒)	野口基金
事務局長	小林 修 (S. 39年卒)	財務
会計	井波明夫 (S. 39年卒)	会則改定
	大飼研介 (S. 37年卒)	SELDAA フォーラム・会報
	鈴木達也 (S. 38年卒)	会報
	鷹野富司 (S. 45年卒)	会報
	吉田研作 (S. 47年卒)	SELDAA フォーラム
	斉藤敬子 (S. 48年卒)	BTF 講座
	日下より子 (S. 48年卒)	女性セミナー
	竹内裕子 (S. 53年卒)	
	三浦勢津子 (S. 62年卒)	会報

なお、任期は平成4年(1992年)12月31日まで。

## 上智大学英語学科平成元年度収支決算報告書

監査役(昭44年卒) 吉田正明監査済

(1990年7月16日)

科 目		予 算	実 績	摘 要
収 入	1. 前期よりの繰越	1,801,678	1,801,678	131人
	2. 入 会 金	100,000	131,000	
	3. 会 費	1,300,000	1,561,000	
	4. 受 取 利 息	30,000	49,070	
	合 計	3,231,678	3,542,748	
支 出	1. 名簿作成積立金	500,000	500,000	
	2. 名簿作成準備金	50,000	0	
	3. 会 報	200,000	206,925	
	4. 郵 送 料	280,000	433,408	
	5. パーティ補助金	100,000	36,052	
	6. 女性セミナー	60,000	55,000	
	7. 常任委員会運営費	10,000	0	
	8. 事務局運営費	150,000	189,132	
	9. 幹事会運営費	30,000	16,850	
	10. SELF 援助金	100,000	50,000	
	11. 講 演 会	50,000	0	
	12. 予 備 費	1,701,678	305	
合 計	3,231,678	1,487,672		
差引収支			2,055,076	

### 会費お支払いのお願い

今号で紹介しました SELDAA の諸活動は、卒業生の皆様からの会費で運営されています。事務局一同は、今後ともより一層の活動内容の充実と拡大を図ってゆく所存です。まだ会費の未納の方は、同封の振り込み用紙で是非お支払いいただくようお願い致します。

事務局長